



2018年3月19日 人権理事会

市民社会からの発言：グリーンピース・インターナショナル

森松明希子さん演説日本語訳

森松明希子と申します。避難者である母親たちと、グリーンピースとともにきています。

わたしは、2011年5月、福島の大災害から逃れるために、二人の子どもを連れて避難しました。

原発事故直後、放射能汚染は広がりました。

わたしたちには、情報は知らされず、無用な被ばくを重ねました。

空気、水、土壌がひどく汚染される中、わたしは、汚染した水を飲むしかなく、赤ん坊に母乳を与えてしまいました。

放射能から逃れ、健康を享受することは基本的原則です。日本の憲法は、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ平和のうちに生存する権利」と書かれています。

しかし、日本政府は市民をまもるための施策は、ほとんど実施してきませんでした。そのうえ、日本政府は放射線量の高い地域への帰還政策にばかり力を注いでいます。

日本政府は、国連人権理事会での勧告を、ただちに、完全に受け入れ、実施をしてください。

国連加盟国のみなさんの日本の人々の権利擁護のはたらきに感謝します。今後も福島、そして東日本の、特に、脆弱な子どもたちを、さらなる被ばくからまもることに力をかけてください。

ありがとうございました。

以上

